

## 「ケアンズ・グループ バリ・コミュニケ」(仮訳)

(第33回ケアンズ・グループ閣僚会合、2009年6月7日～9日、インドネシア・バリ)

我々ケアンズ・グループの閣僚は、2009年6月7～9日にインドネシアのバリにて、ドーハ・ラウンド交渉をいかに再活性化するかを模索するために会合した。

我々は、交渉に再び参画することが必要であるとの昨今の呼びかけとWTO加盟国によるラウンド妥結の重要性の再確約を歓迎する。

ドーハ・ラウンドは、現下の世界経済危機において、果たすべき特に重要な役割を担っている。交渉妥結は、経済回復に大いに必要とされている貢献をし、多角的貿易体制の恩恵を実証するだろう。この成果は、我々の手の届く範囲にあり、我々は断固として成果を現実のものとする。

農業は、とりわけ開発途上国の開発にとって重要であるため、ドーハ・ラウンドの中心に位置している。交渉結果は、マンデートに従った重要な農業貿易改革の道筋をさらに進めていくことにより、ウルグアイ・ラウンドを通じて得られた基礎、規律、成果の上に実質的に築かれなければならない。

ケアンズ・グループは農業交渉においてなされた良い進展を認識している。我々は、市場アクセスの実質的改善、貿易歪曲的国内支持の実質的削減、香港閣僚会議において合意されたものの実施期限を大幅に超過しているあらゆる形態の輸出補助金の撤廃を通じ、公正で市場指向型の農産物貿易体制というケアンズ・グループの長期的な目的を満たす成果を確保するために、モダリティ・テキスト案を基礎として、かかる進展を積み上げていかねばならない。

ドーハ・ラウンドの野心的でバランスの取れた成果は、農産物の市場アクセス機会の相当程度の改善をもたらすであろう。また、国内支持を相当削減された約束水準に固定し、新たな輸出機会を開き、国際市場における歪曲性の水準を下げるであろう。このことは、開発途上国の低所得の生産者を含めて、全ての農業生産者に恩恵をもたらすであろう。さらに、これを最後に輸出補助金が撤廃されるであろう。このような改革は増大する保護主義の脅威に対抗する貴重な保険となるであろうし、国際貿易体制を平等な競争の場に近づける助けとなるであろう。

世界経済の不況という重大な状況下で、農業分野の保護主義の拡大を防ぐことが不可欠であり、その対象には関税だけでなく、補助金その他の制限的な非関税措置も含まれる。最近のEUと米国による或る主要産品に対する輸出補助金の再開は、保護主義拡大のリスクを高めてしまった。ケアンズ・グループの閣僚は、これらの措置の再開を深く懸念している。EUと米国は最短の速やかさでこれらの輸出補助金を撤廃することでリーダーシップを示すべきである。たとえWTO規律に沿った措置であっても相当に保護主義的な影響を与えるおそれがある。このた

め、我々はWTO加盟国に対し最大限の抑止力を行使し、この例に続かないよう強く求める。現在の困難な中でも、すべての加盟国は責任感を持って行動し、保護主義的措置に訴える誘惑を断ち切らなくてはならない。

ラウンド妥結のためには、WTO加盟国は、バランスのとれた野心的な成果に向けた我々のマ  
ンデートを遂行するための政治的意志を示さなければならない。

今後のためには、我々は今、技術レベル及び政治レベル双方において、透明で全ての加盟国が関与するプロセスを必要としている。貿易大臣は、事務方が集中的にかつ現在あるものをベースに取り組むべき緊急性を強調した。高級交渉官は、交渉妥結に向けた明確な筋道を立てるために可能な限り早急に寿府で再び会合し、欧州における夏期休暇までにその筋道を辿り始めなければならない。カーク通商代表及びシャルマ・インド商工大臣はこうした見方を全面的に支持した。

同時に、WTO加盟国は、政治レベルで進展を図るためにあらゆる機会を利用しなければならない。この目的のため、ケアンズ・グループの閣僚は、今後数週間及び数ヵ月間、あらゆる機会を利用していくことを公約した。

我々はこの会合を利用して、インド、米国、中国、EC及び日本を含めて、農業交渉の妥結へのアプローチを議論した。これらの特別ゲストは我々に対し、農業貿易改革、開発及び多国間貿易体制に資する成果を伴ったドーハ・ラウンド妥結に可能な限り短期間に達するため、交渉を再活性化するというケアンズ・グループのコミットメントを共有している旨述べた。

我々は、ラミーWTO事務局長及びウォーカー農業交渉議長の参加を歓迎し、貢献に感謝する。

我々は、ベトナムの会合へのオブザーバー参加を歓迎するとともに、彼らとの緊密な協力の継続を期待する。

我々は、ケアンズ・グループの農業者リーダーの同席に感謝する。彼らの指導や支持は我々の作業に不可欠なものである。

我々は、インドネシア政府の第33回ケアンズ・グループ閣僚会合の主催に感謝する。そして、ウルグアイによる次回ケアンズ・グループ閣僚会合の主催提案を歓迎する。

ケアンズ・グループの構成国は、アルゼンチン、豪州、ボリビア、ブラジル、カナダ、チリ、カンボジア、コスタリカ、グアテマラ、インドネシア、マレーシア、NZ、パキスタン、パラグアイ、ペルー、フィリピン、南アフリカ、タイ、及びウルグアイである。

原文 ([http://www.cairnsgroup.org/media/090609\\_communique.html](http://www.cairnsgroup.org/media/090609_communique.html))